

秋田ワールドゲームズ観戦記

01年8月23日(木)

安孫子・野坂・坂井・泉田

思いがけず影響が心配された台風が、我々に気を使ったのか駆け足で過ぎ去りまさに「台風一過」となった23日、急遽参加の安孫子さんを含めて4人が朝8時前宮城交通の高速バスターミナルに集合した。私はチケット購入の兼ね合いで、少し早めに到着。この時間ターミナルからは10分置きに比較的中距離の高速バスが出発している。近くのコンビニで道中の食料としてキャラメル・豆・ポテトチップなどを購入。やがて、バスは定刻に出発した。車窓を過ぎ去る街の光景は、昨日の雨に洗われてなんとなくすべてが光つて見える。さすがに片道3時間40分の時間はしんどいが、自分たちで運転することを考えれば気楽ではある。車内ではもってきた資料を確認、途中秋田道の山越えではこまかい雨が残っていて心配したが、やがて秋田の街並みがみえはじめると再び日が差してくる。高速から降りて市街地に入るとさっそく、コンビニの店頭にワールドゲームズののぼりを発見。徐々に気分は高まる。さほど混雑することもなくバスは20分ほど早く駅前に到着。



ひさびさの秋田、駅前はみちがえるほど新しくなっている。もちろんワールドゲームズ(以下WG)ののぼりがしっかりと私達を出迎えてくれる。まずは情報収集ということで駅構内(2階)に向かう。階段を上りきるとそこはWG一色。さまざまなフラッグ、看板、案内のためのカウンターやディスプレー、軽ショックをうけつまではインフォメーションに立ち寄る。周辺にはそろいのTシャツを着たボランティアがかなりの人数、カウンターにも3名のスタッフ。その中の工藤さんという女性にパンフレットやマップなどの資料をもらうかたわら、あれこれと質問させていただく。



駅での誘導

出入り口が限定されていることもあり、1ヶ所に集中。改札正面に目立つディスプレイ案内ブース、観光客用カウンターなど。中にはIDカード発行の案内も。ちなみに選手送迎の案内は急に依頼をうけた秋田JCのスタッフが担当していた。



カウンターの女性たちを質問攻めにした変な観光客にもにこやかに対応してくれるボランティアのみなさん。ここで第一印象が極めて良くなりました。大会事務局の電話番号を調べていたたり、写真をとらせろと言ったり、来年は仙台のWカップにせひとと誘惑したり、しっかりわがメンバーば活動している。教えてもらったWGプラザをめざして連絡橋を歩いていくと、中央ではWGのグッズ販売(その後数ヶ所でみかけた)、「ハギーとナミ」というキャラクターのグッズをはじめ、食品についても種類は豊富であった。ちなみに、ボランティアのTシャツは白、オフィシャルグッズの売店の販売員のTシャツが白でちょっと区別がつきにくかった。Wカップ交流センターとなっている物産館(アトリオ)に向かう商店街、あちこちにWGのポスター、反面、誘導表示はやや少なめ、ちょっと自信がなくなってきたころアトリオに到着、ここにはWGのオフィシャルショップのほかイベントコーナーが設けられている。おりしもB1にあたるステージでは芸者さんの踊りがあり、ボランティアの女性の英語での説明つきでかなりの数の外人で大盛況であった。この2ヶ所の入り口にもインフォメーションがあり、なじみのTシャツを着たボランティアが案内を行なっている。質問すると主催組織から配布されたのは、このTシャツの他、ウェストポーチ・帽子とのこと。日本人感覚だからか、すわったままの応対がちょっと気になった。配布しているパンフ類は無料であり充実している。既存のものを流用した

りしているせいかどうか 形態はまちまち それでも イベントガイドブックや公式プログラムは力が入っている。

やがてイベントが終わりガランとした会場に降りていくと お茶の無料サービスが行なわれている。歩きつかれてつい私達も腰をおろしありがたくセイロン茶をいただき。日・時間でお茶の種類を変えるなどなかなか手がこんでいる。



グッズを購入し表に出ると アトリオの前の広場では大道芸をやっている。こちらは地元の人々が樂しげに見入っている。一輪車に乗る話術の巧みな芸人の姿にしばし空腹も忘れてしまう。PAも入っていて、サポート体制はしっかりしている様子。このようなイベントはどこが企画し どこの経費で運営されているのだろうか。のんびりとこのまま一日イベントを楽しみたいという誘惑を振り切り、前日の台風の影響でテントを一旦畳んでしまっているというWGプラザに向かう。オフィシャルホテルに隣接して表彰式やイベントを行なうスペースが確保されている。駅からホテルまで一直線の動線上に、様々な機能が集積しているのは なかなか考えられている。聞いていたとおりWGプラザは夕方5時からとのことで 仕方なく入り口のボランティアの方(年配の男性)に おいしい稻庭うどんのお店や、地元でおいしい日本酒について質問する。地図ま

で取り出してお店の場所を紹介していただき恐縮する。プラザの右手にはオフィシャルホテルがあり、新聞によるとこの中にある「インターネットカフェ」が外国の役員・選手に大人気という。



昼食の場所として教えてもらった「無限堂」までみたび歩く。大きな通りが交差する所には必ず英語併記の案内板があり、更に目立つ場所に地図の入った案内板も設置されている。WGが終わってもこうしたものは財産として残る。もちろん人も。イベントは一過性だが、この経験は何かがはじまるきっかけになると思える。



稻庭うどんの老舗「無限堂」は古風な蔵作り、ここ念願の昼食、冷やで食べたうどん(とうよりそうめんっぽい)は確かに美味しかったが、後でタクシーの運転手さんに聞くと、一般的には温かいのを食べるのだと、同時に頼んだ「はたはた寿司」、これはなれ寿司でやや好き嫌いがわかるところ。十分に満足し会計すると抽選券(WGプラザで行なわれているという)を配布している。商店街が連動して活動している姿はちょっと予想外であった。続いて向かったのは海沿いにあるセリオンという施設、ここでは公式競技である「ビリヤード」が開催されている。途中乗ったこの路25年というタクシーの運転手さんの話しが楽しかった。今回のWGのために事前に研修もあったとのことだったが、結局乗り込む外人の人が行き先さえ、正しく言ってくれればまったく問題はなく、それでも分からなければ紙に船と電車を書いて対応したこと也有ったのだそう。朴訥とした言葉づかいがあったかい。

秋田港にそびえるセリオンは透明なタワーであり、高さは全体で143Mほど、丁度100Mの位置にある展望台からは360度の眺望が楽しめる。ここに隣接するセリオンプラザを会場としてビリヤードが行なわれている。入り口でチケットを購入して入ったけれど、手荷物検査はなく、セキュリティチェックの体制はほとん

どない。このあたりはオリンピックやWカップとの違いを痛感。入り口で例によってボランティアの方から帰りのバスの情報などを仕入れて会場へ。



全員が初めて見るビリヤードはオープンスペースに4台のビリヤード台が置かれ、右手がひな壇式の観客席になっていて、各テーブルでは極めて真剣なプレーが行なわれている。観客席はほぼ満員に近く、なんとか中央に座る席を確保する。テーブルごとに戦われているゲームの内容が違っていて、それが同時に展開するため、最初はけっこう戸惑いを感じたが、やがて、もっとも中央の女性同士のプールビリヤードを楽しんだ。

席についた段階ではドイツと日本の女性のスコアは拮抗していた。が、やがて、ほんのひとつのプレーが明暗を分け、ドイツ選手が勝利を手にする。その意味では、極めてメンタルであり、一瞬にかける選手のプレーは素晴らしかった。

ほぼ同時に3つのテーブルのゲームが終わり、他の観客と一緒に私達も立ち上がって会場から出た。と、そこには今戦ったばかりドイツ選手が立っている。実に無防備というか、あっけらかんとしていて逆に嬉しくなってしまう。全員でお祝いの言葉をかけると、彼女もにこやかに返してくれて、これはこれでいいものだと思う。（おまけに記念写真も・・・）



WG期間中、各会場の間を観客用の無料バスが走っている。他にも選手用・マスコミ用の送迎バスをみかけたが、各会場の競技ごとのパンフレットといふように経費を捻出しているのだろうともあれ、時間を調整するため、隣のセリオンタワーに昇って、周りの景色を楽しむ。ここでも（後で駅ビルでも同様の答えを聞いた）WGで観光客が増えていることはほとんど無い、という話を聞いた。確かにWGの参加者は3000名程度であり、秋田市の人口の約1%に過ぎないし、競技の性格上、観光客が大きく伸びることはないのかもしれない。

駅に向かうシャトルバスは定刻にセリオンを出発。途中夕方から行なわれる「ローラースケート」や「新体

操」の会場を経由。各会場では既に1時間以上前から入場を待つ列が出来ていた。歩道橋の側面に大きく書かれたWGの案内、商店街の街灯にはためくフラッグ ある意味、夏の終わりにふさわしい祭として、地元の人々がしっかり楽しんでいたのかも知れない。



再び訪れた秋田駅では、昼過ぎよりも増えたボランティアの人々がWGの公式パンフレットを配布している。中には改札を出てくるWGの関係者に向けて、プラカードを高くかかげて誘導しようとしている人もいる。その多くが真っ黒に陽に焼け、これまでの日々を感じさせる。今回応対してくれた多くのボランティアの方は、真っ直ぐこちらの目を見て精一杯応対してくれた。17時10分、秋田発仙台行き高速バス乗車。もう少し時間をかけてWGを楽しみたかった。もっと多くの人と話をしてみたかった。



こうして「台風一家」の短い夏の日は終わった。私のバックには、供に旅をしたポテトチップがそのまま残っていたが、それ以上に何か温かいものが入っているように感じた。

秋田ワールドゲームズ概要

今回で第6回、原則夏季オリンピックの翌年開催、今回は8月16日～26日の11日間、秋田県内8市町村21会場で公式26・公開5競技に3,000人を上回る選手役員が参加。このWGはアジアでは初の開催。新しい施設を作らず等身大の運営を行なうことも大切なテーマとなっている。